

2017年7月の金融経済概況のポイント

■景気の基調判断

- 7月は、従来の判断を一つ引き上げて「道北地域の景気は、持ち直している」としました。道北地域の景気判断を変更するのは、一段引き下げを行った2014年11月以来です。また、上方に変更するのは、2013年12月以来です。
- 6月までの景気判断は、「一部に弱めの動きもみられるものの、基調的には持ち直している」としていました。すなわち、このところの道北地域経済は、①公共投資の増加、②住宅投資の緩やかな持ち直し、③自動車の売行き堅調、④観光の持ち直し、⑤雇用状況の改善、といったプラス要因により基調的に持ち直しの方向にありましたが、個人消費のうち大型店の売上動向が横ばいにとどまっていることと、企業の設備投資が盛り上がり欠けていたことから、その足取りはごく緩やかなものとなっていました。こうしたところ、先日公表した6月の日銀短観では、道北企業の2017年度の設備投資計画が前回（3月）調査比大幅に上方修正され、前年をかなり上回る計画となっていました。また、企業の景況感を表す業況判断DIも良好な結果となっていました。このため、これら点も踏まえ、今般道北地域の景気判断を一步前に進めることにしました。

■個人消費の動向

- 5月に7か月振りに前年を上回った大型店売上高は、6月は前年比▲2.7%と再び前年実績を下回りました。もっとも、6月は土日に雨が多かったうえ全般的に気温も低かったという天候要因に加え、一部店舗での改装による売り場縮小といった特殊要因もあったため、実勢ではほぼ横ばいとみています。

▽ 6月の土日の天候（旭川）

6月3日（土）	曇時々雨
4日（日）	雨
10日（土）	雨時々曇
11日（日）	曇時々雨
17日（土）	晴時々曇
18日（日）	晴
24日（土）	曇時々雨
25日（日）	雨後一時曇

▽ 6月の平均気温（旭川）

	本年	前年	平年
上旬	13.2	12.7	15.1
中旬	15.7	16.1	16.6
下旬	17.2	18.1	18.0

- 6月の新車登録台数は、前年比+10.8%と増加しました。3か月連続で前年比2ケタの伸びです。除く軽自動車(同+10.6%)、軽自動車(同+11.3%)ともに増加しています。モデルチェンジ車を中心に堅調な動きが続いています。個人消費の範疇には入りませんが、トラックなどの商用車も伸びています。

■観光の動向

- 観光は、6月は上記天候要因もあって、やや不冴えなデータも見られますが、基調的に持ち直してきているとみています。
- 道北4空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数は、前年比+1.9%と前年を上回りました。旭川空港の国際線は、乗り入れ便の減少から大幅マイナ

スとなっています。しかし、国内線は、紋別空港が前年比▲20.3%でしたが、旭川空港が同+8.8%、稚内空港が同+3.7%（速報）、女満別空港が同+8.1%と伸びたため、4 空港全体でも同+6.8%と前年を上回りました。

- 6月のホテル・旅館宿泊者数は、前年比▲2.8%と前年を下回りました。一方、旭川市内ホテルの稼働率は92.5%と前年（88.3%）を上回る高稼働でした。
- 各地観光は、博物館網走監獄（前年比+13.4%）が引続き好調だったものの、旭山動物園（同▲5.1%）、層雲峡地区（同▲5.9%）、利尻・礼文フェリー（同▲1.3%）、ウトロ（同▲7.5%）がマイナスだったため、全体では前年比▲3.9%となりました。

■公共投資の動向

- 6月の上川、オホーツク、宗谷の3 総合振興局における公共工事請負額は、前年比+40.3%と大幅に増加しました。4月からの累計でも、同+12.3%と増加しています。内容的には災害復旧工事が多いようです。建設業界では、人手不足と相まって、各社とも繁忙な状態が続いているようです。

■住宅着工

- 5月の新設住宅着工戸数は、前年比▲4.7%と前年を下回りました。貸家（前年比+1.7%）は4か月振りに増加したのですが、持家（同▲8.5%）が7か月振りに前年を下回ったほか、分譲（同▲35.7%）も4か月振りに減少しました。住宅着工は振れが大きいので、傾向を見るのが難しいのですが、緩和的な金融環境の下で、引続き緩やかな持ち直し基調にあるとみています。

■雇用動向

- 雇用状況を示す指標は、引続きタイトであることを示しています。5月の有効求人倍率は、旭川が0.99倍と1倍を下回りましたが、引続き高水準です。稚内（1.11倍）、北見（1.16倍）、網走（1.11倍）も高水準が続いています。5月の新規求人数は、旭川（前年比+7.5%）、稚内（同+18.5%）、北

見（同+8.2%）が前年を上回り、網走（同+0.0%）も前年比横ばいだったため、全体では前年比+7.9%と前年を上回りました。

■日銀短観（6月調査）の結果

- 道北企業（47社）の景況感を示す業況判断DIは+19でした。DIは、最近の業況について「良い」と回答した企業の割合（%）から「悪い」と回答した企業の割合（%）を差し引いたものです。前回3月調査では+12でしたので、+7ポイント改善しました。建設関連企業の好転が全体を押し上げた形です。
- また、道北企業の売上および経常利益の動向をみると、売上は、2016年度実績（前年比+0.9%）および2017年度計画（同▲1.7%）ともほぼ横ばいでした。一方、経常利益は、2016年度の実績が前年比+44.1%と大幅増益でした。2017年度は前年比▲19.6%の計画となっていますが、水準としては引続き高いレベルの利益を確保できる見通しとなっています。こうした中で、設備投資は、2016年度の実績は前年比+0.6%とほとんど増えていなかったのですが、2017年度は同+57.4%と大幅に増加する計画となっています。3か月前の3月時点での計画は同▲7.8%でしたので、ここにきて大幅に上方修正されました。
- 以上の調査結果は、道北地域の景気が少しずつ良い方向に向かっていることを示していると思われます。

■今後のポイント

- これまで、道北の景気が持ち直していると言っても今一つ本格的な回復に至らない背景として、個人消費の弱さと設備投資の少なさを指摘してきました。今回、設備投資に関しては動意がみられましたので、今後はこれが持続的なものになることを期待するとして、あとは、個人消費の動向が大きな鍵にな

と思います。個人消費は、自動車販売が比較的順調に伸びてきていますので、今後は、横ばい基調をなかなか脱し切れていない大型店の売上に動意がみられるようになることを期待したいと思います。

以 上

景気判断の推移

公表月	全国(日本銀行本店)		日本銀行札幌支店		日本銀行旭川事務所	
	前回比	全道	前回比	全道	前回比	道北(上川・宗谷・オホーツク総合振興局管内)
2014年10月	→	消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動などの影響から生産面を中心に弱めの動きがみられているが、基調的には緩やかな回復を続けている	→	↓	→	一部に緩慢さを残しつつも、基調的には着実に持ち直している
11月			→	↓	↓	個人消費等の回復に遅れがみられるが、基調的には持ち直している
12月	↑	基調的に緩やかな回復を続けており、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動などの影響も全体として和らいでいる	↓	一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している	→	↓
2015年1月			→	↓	→	↓
2月	↑		→	↓	→	↓
3月			→	↓	→	↓
4月	→	緩やかな回復基調を続けている	→	↓	→	↓
5月	↑	↓	→	↓	→	↓
6月			↑	緩やかに回復している	→	↓
7月			→	↓	→	↓
8月	公表なし					
9月		↓	→	↓	→	↓
10月	→	緩やかな回復を続けている	→	↓	→	↓
11月		↓	→	↓	→	↓
12月		↓	→	↓	→	↓
2016年1月	→	緩やかな回復を続けている	→	↓	→	↓
2月		↓	→	↓	→	↓
3月		↓	→	↓	→	↓
4月	→	基調としては緩やかな回復を続けている	→	↓	→	↓
5月		↓	→	↓	→	↓
6月		↓	→	↓	→	↓
7月	→	基調としては緩やかな回復を続けている	→	↓	→	↓
8月	公表なし					
9月		↓	→	↓	→	↓
10月		↓	→	↓	→	↓
11月	→	基調としては緩やかな回復を続けている	→	↓	→	↓
12月	↑	↓	→	↓	→	一部に弱めの動きもみられるものの、基調的には持ち直している
2017年1月	→	緩やかな回復基調を続けている	→	↓	→	↓
2月		↓	→	↓	→	↓
3月		↓	→	↓	→	↓
4月	↑	緩やかな拡大に転じつつある	↑	回復している	→	↓
5月		↓	→	↓	→	↓
6月		↓	→	↓	→	↓
7月	↑	緩やかに拡大している	→	↓	↑	持ち直している



